

## Cellar Course (蔵塾) 報告

実施日：2009年8月29日(土)、30日(日)  
場 所：大阪河崎リハビリテーション大学  
参加者：20名  
世話人：小俣 武陞 (代表)、藤野 文崇、  
海端 俊秀  
講 師：小滝 昌彦、村上 浩二、  
吉田美由紀、小俣 武陞

### <テーマ>

効果的な機能的運動療法 (Functional Kinetics) を考える  
= PNF (神経筋促通手技) とKlein-Vogelbachより =

### <内 容>

日ごろより、臨床で悩んでいる症状やなかなか解決できない問題に関して、Functional Kineticsのコンセプトを用い運動分析を行い、より効果的な運動療法を実施するために、PNF・Klein-Vogelbachといったテクニックやアプローチ方法を用いた治療を体験していただいた。

### <タイムスケジュール>

#### 1日目

10:00~12:00

Klein-Vogelbachのコンセプトの講義

13:00~14:30

PNF (神経筋促通手技) のコンセプトの講義および実技練習 (上肢・体幹)

14:40~16:10

PNF (神経筋促通手技) のコンセプトの講義および実技練習 (体幹・下肢)

16:20~17:30

PNFの基本パターンの練習

#### 2日目

10:00~12:00

PNFコンセプトの講義および基本的PNFパターンの実技練習

13:00~17:00

臨床に使うためのPNFコンセプトおよびPNF手技の実技練習

### <所感と今後の方針>

以前から言われている事ですが、患者を治療するという事は、××法を実施するのではなく、よりよい反応を導き出し、日常生活動作に反映させることが、我々リハビリテーション領域の専門職が担う役割です。この度、初のKlein-Vogelbachのコンセプトを講義に含み、PNFアプローチとの融合を考え、この企画を行いました。最近の若手理学療法士の傾向として、障害の本質を見つけ出すことが困難で苦労している若手理学療法士・作業療法士が急増しているように思います。この原因の1つには、動作観察に必要な運動学的な動作観察の視点が不可欠であるにも関わらず、観察が不十分であり、評価から治療へ考察する過程で、感じる身体を形成することができないと思われた。

従って、今回の講習会から動作分析の手順をより詳しく伝える必要を痛感し、日本におけるリハビリテーション領域において比較的普及しているKlein-Vogelbachの運動学的視点を導入することになった。

本年度(2009年度)から、Cellar Course (蔵塾)の本学における開催は、理学療法学専攻公認の活動として認められるようになりました。

これも卒業生や関連施設の先生方の支援によるものと思っております。今後も、臨床力を高めるために、徒手療法を中心に、生活支援の関連も含めた卒後教育プログラムを実施したいと考えております。

